

ボッチャ体験を中心とした「心」と「体」
が元気になる運動あそび
「ボッチャ体験、
親子でわくわく！楽しいね」

学校名 光市立やよい幼稚園（山口県）全クラス

全園児数 20名（男子12名 女子8名）

（本実践に係る問合せ先）

電話番号 0833（77）2690

園メールアドレス yayoi-k@edu.city.hikari.lg.jp

1 実践（研究）のねらい

- （1）パラリンピックの競技の一つである『ボッチャ体験』をすることで、新たなスポーツにわくわく感をもって運動あそびに取り組み、関心を高める。
- （2）絵本を通して、目が見えないことってどんなこと？耳がきこえないってどんな感じかな？という不思議な気持ちや、色々な立場の人が助け合って生きていることについて、幼児なりに考える機会をもち、他者への共感や尊重する気持ちを育てる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 『ボッチャ』を中心とした運動あそびを効果的に行うための活動

○絵本や万国旗作りを通しての話合いを行った。

『どんなかんじかなあ』（中山 千夏 ぶん・和田 誠 え 自由国民社 出版）の絵本を見たり、運動会時に万国旗作りをしたりすることで、オリンピックやパラリンピックに関心をもち、身体障害者について一緒に考える機会をもらった。

2 運動あそびの充実

○山口県レクリエーション協会の方々を講師に迎え『ボッチャ』を中心に実施した。（計3回実施）

第1回（令和元年10月30日 やよい幼稚園 遊戯室にて）

- ・準備体操のあと、クラスごとにボール遊びを行った。大、中、小のボール遊びをしたり、ボッチャで使用する赤と青の玉を使ってリレーをしたりして楽しんだ。ボールや玉に親しみ、講師の方と仲良しになっていった。

第2回（令和元年11月14日 三井小学校体育館にて）

- ・前半は動物の身体表現やしっぽとりなどを行い、後半は白い玉をめがけて赤と青が投げ合うという簡単なルールで『ボッチャ』体験をした。講師の方の温かい人柄と、わかりやすい説明で、安心して取り組めた。

第3回（令和2年1月15日 三井小学校体育館にて）

- ・保護者と一緒に身体表現やバルーン遊びをし、後半はクラスごとに親子で『ボッチャ』のミニ試合をした。試合になると「がんばれー」などの子どもたちの声援が飛び、活動が一層盛り上がった。親子の良い触れ合いの場となった。

○成果の意義

- 1 『ボッチャ』という新しいスポーツに関心をもち、運動あそびに意欲的に取り組む姿勢が見られた。
- 2 『ボッチャ』がパラリンピックの競技であることから、同じスポーツを共有できたことで障害をもった方に対して親子で学ぶことができた。
- 3 事業としての取組を地域の便りに情報発信することで、地域の方にもオリパラ教育に関心をもちいただく機会となった。

○今後の課題

- 1 様々な立場の人が助け合って生きていくことが大事であり、尊重し合うことの大切さを継続して伝えていく。
- 2 わくわく感をもって主体的に取り組めるような運動あそびを今後もしっかりと取り入れていく。

○ 研究内容

【ボッチャを効果的に行うための活動】

「どんなかんじかなあ」の絵本を見たよ。



【運動あそびの充実 第1回】

バランスボール、初体験！（左）
赤と青、どっちが多いかな？（右）



【運動あそびの充実 第2回】

しっぽとりしたね。（左）ボッチャ初体験だね。（右）



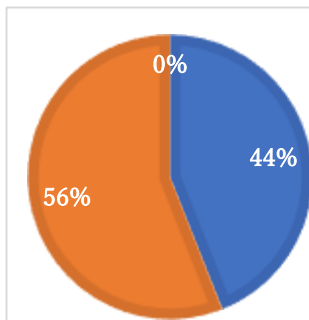
【運動あそびの充実 第3回】

バルーンに入ったね。（左）お家の人とボッチャ体験（右）



【オリパラ教育の感想】

参加した全保護者・園児の声から振り返りを行った。



【ボッチャ体験後の保護者の声より】

質問：ボッチャ競技に関心をもちましたか？

- とても関心を持った
- 少し関心を持った
- あまり関心を持たない

※「あまり関心をもたない」は0%

【子どものつぶやき】

教師「パラリンピックってどんな人が出るの？」
子「耳が聞こえない人、動けない人が出る。」
教師「目が見えない人は、水の流れるを感じるなど他の感覚を発揮するんだよ。好きなことをやっている時はどんな気持ちかな？」

子「嬉しい気持ち」

※その人のよさ、持ち味（自分も含めて）を尊重し、考える機会となった。

【今後の取り組みについて】

～本実践終了後の園としての取り組み、今後の方向性について～

- パラリンピックに出場する選手に焦点を当てた人権教育を通して、「自由な環境の中で」「だれでもみんな平等」「かけがえない命」をキーワードとして園生活の中での様々な場面を共に考えていく環境づくりを心掛ける。
- 日々の活動の中で「ボッチャ」を園児以外にも小学校の子どもたちや保護者と一緒に触れる機会を増やすことで、地域にもパラスポーツの関心を深めるよう働きかけ、人権意識の向上を図る。